

2022年3月期 連結決算概要

キオクシアホールディングス株式会社

2022年5月13日

注意事項

2017年4月1日に株式会社東芝からメモリ事業を会社分割し（旧）東芝メモリ株式会社（以下「旧TMC」）が発足しました。2018年6月1日にBain Capitalを軸とする企業コンソーシアムにより組成される株式会社Pangea（以下「Pangea」または「新TMC」）が旧TMCを買収したのち、2018年8月1日に新TMCが旧TMCを吸収合併し、社名は東芝メモリ株式会社となりました。また、2019年3月1日に単独株式移転により東芝メモリ株式会社を完全子会社とする東芝メモリホールディングス株式会社（以下、「TMCHD」）を設立しました。2019年10月1日に当社はキオクシアホールディングス株式会社に社名変更しました。

将来に関する記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定および所信に基づくものであり、多様なリスクや不確実性（経済動向、市場需要、半導体業界における激しい競争等がありますが、これらに限られません。）により、実際の結果とは異なる可能性があるのでご承知おきください。また、当社は本資料上の将来予想に関する記述について更新する義務を負うものではありません。

本資料に記載されるメモリ市場の見通し等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。

なお、本資料は、当社の2022年3月期連結決算概要の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本文に掲載の製品名やサービス名は、それぞれ各社が登録商標または商標として使用している場合があります。

業績概要¹

[億円]	22年3月期	22年3月期	対前四半期	21年3月期	22年3月期	対前年度
	3Q	4Q				
売上高	4,027	3,938	▲89	11,785	15,265	+3,480
営業利益	722	309	▲413	66	2,162	+2,096
マージン	18%	8%	▲10pt	1%	14%	+14pt
当期純利益	382	107	▲275	▲245	1,059	+1,304
マージン	9%	3%	▲7pt	▲2%	7%	+9pt

補足情報

減価償却費 ²	1,134	1,172	+38	4,256	4,454	+198
不純物を含む部材を起因とする操業影響額 ^{3, 5}	-	▲332	▲332	-	▲332	▲332
PPA影響額等 ^{4, 5}	▲262	▲228	+34	▲1,091	▲970	+121
法人税等費用	172	37	▲135	▲149	485	+634

1. 連結・IFRSベース
2. 営業利益に減価償却費を加算したものが、当社グループのキャッシュベースの収益性を示す指標であるEBITDAとなります。当第4四半期におけるEBITDAは、営業利益309億円に減価償却費1,172億円を加算した1,481億円となりました。当連結会計年度におけるEBITDAは、営業利益2,162億円に減価償却費4,454億円を加算した6,616億円となりました。
3. 2022年1月下旬に発生した3次元フラッシュメモリ「BiCS FLASH™」の特定の生産工程における不純物を含む部材を起因とする四日市工場と北上工場での操業影響による仕損品に関わるコスト、未稼働期間の製造固定費を含む営業利益への影響額です。
4. Pangealによる旧TMCの買収と台湾・LITE-ONテクノロジー社のSSD事業買収に伴い発生したPPAによ

5. 営業利益への影響額及び2019年6月に四日市工場で発生した停電影響額です。営業利益から不純物を含む部材を起因とする操業影響額及びPPA影響等（以下「Non-GAAP調整額」）を除外したものが、当社グループの恒常的な経営成績を示すNon-GAAP営業利益となります。当第4四半期におけるNon-GAAP営業利益は、営業利益309億円からNon-GAAP調整額▲560億円を除外した869億円となりました。同様に、Non-GAAP当期純利益は、当期純利益107億円からNon-GAAP調整額▲560億円を除外した金額から税金調整額を差し引いて499億円となりました。当連結会計年度におけるNon-GAAP営業利益は、営業利益2,162億円からNon-GAAP影響額▲1,302億円を除外した3,464億円となりました。同様に、Non-GAAP当期純利益は、当期純利益1,059億円からNon-GAAP調整額▲1,302億円を除外した金額から税金調整額を差し引いて1,969億円となりました。

ハイライト (1/4)

2022年3月期通期業績

- クラウド向け投資と企業のIT投資を背景に、データセンター・エンタープライズSSD向け売上が伸長、さらに、5G移行に伴うメモリ搭載容量の増加トレンドの継続により、スマートフォン向け売上也伸長した結果、当社グループの売上収益は過去最高を更新。
- 販売単価の安定的な推移と、BiCS FLASH™第5世代への生産切り替えによる生産効率向上が寄与し、営業利益は前期比で大幅に増加。

足元の実績及び動向

	22年3月期 3Q	22年3月期 4Q
出荷量 ¹ (QoQ)	1桁%台前半の 減少	1桁%台前半の 増加
販売単価 ¹ (¥, QoQ)	横ばい	横ばい

1. 記憶容量ベース

- 第4四半期連結会計期間は、不純物を含む部材を起因とする操業影響及びIFRSに基づく固定資産税の一括計上の結果、前四半期比で減益。
- データセンター・エンタープライズSSD向け出荷量の増加が、季節性要因によるスマートフォン向け出荷量の減少を補い、総出荷量は前四半期比で増加。
- 需給バランスが安定的に推移したことから、販売単価は前四半期比で横ばい。

ハイライト (2/4)

四日市工場 第7製造棟 (Y7)

- キオクシアとウエスタンデジタルはY7棟第1期における共同投資について合意。Y7棟第1期の建屋は完成し、2022年秋から生産開始予定。

北上工場 第2製造棟 (K2)

- 3次元フラッシュメモリ「BiCS FLASH™」の生産能力の増強に備え、K2棟の建設を開始。竣工は2023年の予定。

中部東芝エンジニアリング株式会社の株式取得 (子会社化)

- 2022年前半までに中部東芝エンジニアリングをキオクシア株式会社の完全子会社とする予定。経験豊富なエンジニアリングリソースを確保し、技術開発力の強化を目指す。

ハイライト (3/4)

製品開発・技術開発

- 次世代データセンター用のPCIe®¹ 5.0向けSSDのサンプル出荷
- 性能とセキュリティー機能を強化したエンタープライズサーバーやストレージシステム向けの24G SAS SSDのサンプル出荷
- 業界で初めてMIPI M-PHY v5.0に対応した組み込み式フラッシュメモリ(UFS製品)のサンプル出荷
- 車載機器向けUFS Ver. 3.1準拠の組み込み式フラッシュメモリのサンプル出荷

1. PCIeはPCI-SIGの登録商標です。

不純物を含む部材を起因とする操業影響

- 1月下旬よりキオクシア株式会社四日市工場と北上工場において、不純物を含む部材を起因とする操業影響が発生。対策を進め、2月下旬に両工場は通常稼働へと回復。現在、「BiCS FLASH™」の出荷への影響が発生しているが、お客様への影響の軽減に努めている。

市場動向及び見通し

- データセンター・エンタープライズSSDの需要は、クラウド向けの旺盛な投資と企業のIT投資が牽引し、引き続き堅調さを維持する見通し
- クライアントSSDの需要は、一般消費者向けに弱さが見られるものの、全体的には底堅く推移する見通し
- スマートフォン向けの需要は、短期的には中国市場の減速と季節性要因による変動も受けつつも、5G移行に伴うメモリ搭載容量増加トレンドの継続により、中長期的には成長が続く見通し
- ウクライナ情勢を始めとする地政学リスクの上昇、インフレ抑制に向けた米国の急速な利上げ方針及び中国のロックダウンなど、マクロ経済の不確実性が増しており、それらが顧客需要とサプライチェーンに与える影響について業界で注視している状況
- NAND市場の中長期的な成長トレンドについての市場の見方に大きな変化はみられていない

KIOXIA